

## 学生の課題作品におけるアイテム画表現の事例紹介

### Examples of Students' Illustrations of Fashion Items.

八浪 美穂

Miho Yatsunami

#### 要旨

アイテム画は衣服やファッションアイテムのデザインや構造を伝達する表現法である。その為、デザインのバランスやディテールの構造を明確に表現しなければならない。しかし、修学途中の学生のアイテム画には、デザインや構造が不明確な表現が見受けられる。本研究では、学生作品のアイテム画の不備を分析・考察し、その原因を探ることを目的とした。これにより、より適切なアイテム画の教授法を構築することを目指す。本報ではいつの時代でも形状や形態を変え、デザインに取り入れられるベーシックなディテール「フレア」「ギャザー」「フリル」に着目し、学生の描くアイテム画の中で、これらのディテールの不備の事例にどのようなものがあるのか調査した。また、不備のあるアイテム画に対し、不備を改善したアイテム画を提示、比較・検討した結果、不備の原因に構造の認識不足、表現の技術不足等があることがわかった。

●キーワード：アイテム画 (illustrations of fashion items) / ファッション (fashion) / 学生作品 (students' works)

#### I. はじめに

アイテム画はファッションデザインを提案・表現する際に、服やファッションアイテムのデザインや構造を伝えるものである。文化学園大学・文化学園大学短期大学部のファッション画の授業では、人物が衣服を着装したデザイン画と共に、アイテム画を制作できるよう指導している。デザイン画は人物が着装した状態を表し、デザインや着こなしの雰囲気を伝える。一方アイテム画は、デザイン・構造のパターンや縫製技術者への伝達を目的として描かれる表現である。よりの確にアイテムの丈や幅、ポケット位置などのデザインのバランスを表現し、各ディテールの構造、仕様を伝達する必要がある。しかし、学生はパターンメイキングや縫製・製作、多様な素材を扱う経験が浅い。したがって学生のアイテム画表現には、見る側に作者の意図と異なる構造を伝えかねない表現も散見される。アイテム画はデザイン画に添えられるだけでなく、仕様書・指示書にも添付される。パターン・縫製技術者は仕様書・指示書に加えて、アイテム画から伝達される情報により、パターンメイキングやサンプル製作、作品制作を行う。よってアイテム画制作者の表現によっては次工程へのミスを引き起こす事にもなり兼ねない。また、アイテム画は原則として着色や

陰影の無い平面的な線画表現である。見る側へアイテムのデザインや構造を誤解なく伝える為には、アイテム画制作者の衣服の構造や仕様への理解が必要不可欠であり、また、そのデザインを表現する技術も必要である。

ファッションのデザインディテールには多種多様なものがある。中でもフレア、ギャザー、フリルはトレンドが変化中、形状や形態を変え、ファッションデザインに取り入れられるベーシックなデザインディテールである。その立体的な構造を表現する為には、比較的高度な技術が求められるディテールといえる。その為、学生のアイテム画表現に不備が出やすいディテールとして、フレア、ギャザー、フリルに着目した。

本研究では学生のアイテム画の課題作品から、デザイン、構造の伝わりにくいアイテム画の事例をピックアップし、どのような表現があるのか分析・考察し、不備の原因を探ることを目的とする。これにより、より適切なディテール表現の教授法を構築することを目指す。

#### II. 方法

##### 1. 調査対象

調査対象は2019年度前期(4月から7月)の本学服装学部における「ファッション画Ⅲ」、「ファッションデ

ザイン画Ⅲ」のうち、筆者が担当した4クラス分の課題作品から抽出した。(表1)

課題は学生に自由にアイテムを選択させ、本人がデザインしたアイテム画とした。対象のアイテム画は、学生が制作したアイテム画の下描き(添削前)より、フレア、ギャザー、フリル表現が描かれているものを抽出した。

図1にフレア、ギャザー、フリルの画像例を示す。フレアとはバイアス裁ちにしたり、接ぎ合わせるなどして、朝顔のように開き、波打って裾広がりになっている部分のことである。ギャザーとは布を縫い縮めてしわやひだを寄せる装飾的技法のことである。フリルとは細長い布の片側をひだやギャザーにしたひだ縁飾りのことである。

抽出した作品の中から、例年多く見られる不備の要素が含まれる事例を取り上げ、その問題点を具体的に抽出した。この不備を修正したアイテム画を制作し、両者を比較した。その際、1アイテム全体を修正する為、フレア、ギャザー、フリル以外の表現についても不備がある箇所をあげた。これらを整理し、より伝わりやすいアイテム画の表現方法として提案した。なお提示した学生作品については、本人より掲載許可を得ている。

### Ⅲ. 結果

図2に学生作品事例1として、アシンメトリーブラウスの事例を示す。ウエストシェイプされ、左右の身頃に異なる生地を用い、左袖はシフォンである。この袖に、ギャザー、フレアが含まれているデザインである。

ディテールの不備として袖のギャザー分量、フレア分量に比較して、シルエットの広がりが足りない点が認められた。その他では、ウエストシェイプされたシルエットに対して、ウエストダーツ、切り替え線の無い構造の

表1 調査対象課題作品

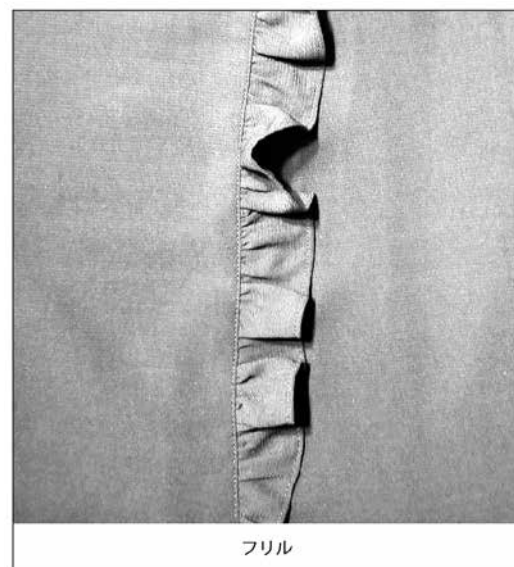
科目・課題名	アイテム名	ディテール
ファッション画Ⅲ 「スタイリング別アイテムのコーディネート表現」	・アシンメトリーブラウス ・オーバースカート付きパンツ ・レイヤードスカート	・袖におけるギャザー及びフレア ・オーバースカートにおけるウエストのギャザー及び裾のフレア ・ゴムウエストにおけるギャザーと裾のフレア
ファッションデザイン画Ⅲ 「リアルクローズの着装表現・アイテム表現」	・ベビードールワンピース	・袖におけるフレア ・身頃の装飾におけるフリル ・ペプラムにおけるフレア ・裾におけるフレア



フレア



ギャザー



フリル

図1 画像例(上 フレア・中 ギャザー・下 フリル)

疑問点、アームホール位置に対する袖のつき方の問題、デザインまたは間違いによる前ボタン位置の不明確さ、脇線のステッチまたはパイピング箇所の不明瞭さが不備として挙げられた。

図3に事例1アシンメトリーブラウスを修正した改善事例を示す。修正したポイントを以下に述べる。

左袖の使用素材は落ち感のあるシフォンの設定になっている。その点を鑑みつつも、アームホールから入れられたギャザー分量が袖口に与える影響を考慮すると、袖のシルエットに広がりを持たせるべきである(図3内-①)。また、このデザインから考えると、袖山のギャザーに加え、アームホールから袖口に向かって型紙を切り開き、フレア分が加えられているというパターンも考えられる。その場合は、よりシルエットに広がりが出るはずである。これらのパターンは広がりが増減はあるものの、シルエットは同じである為、アイテム画表現は同様となる。

その他では、ウエストシェイプされたシルエットを出す為のウエストダーツを追加し(図3内-②)、人体に対して細すぎる身幅を修正した(図3内-③)。また、右身頃は斜めのデザイン線がデザインポイントとなっており、この線は柄、切り替え、テープ状のものを身頃に乘せてミシンでたたく等が考えられる。柄、切り替えの場合、いずれも身頃のシルエットを形作るウエストダーツ、切り替え線等を入れると、ラインが縦横に走り、デザイン的に好ましくない。その為、ウエストダーツ分を型紙上で畳み、デザインの斜めのラインではぎ合わせる切り替えとした。それによりシルエットを形作ることが出来、学生作品のアイテム画同様、斜めのデザイン線のみ表現となる(図3内-④)。テープ状のものを身頃に乘せてミシンでたたく場合、上記同様、シルエットを形作る為、ウエストダーツ分を型紙上で畳み、その上にテープを配置、テープ端にステッチをかける。この場合、斜めのラインの内側にステッチの表現が追加されることとなる。

その他として、ウエスト近くまで大きく描かれている袖付け位置を、身頃のアームホールとのバランスを考慮し、小さく整えた(図3内-⑤)。前ボタンはデザイン的な位置設定ではなく間違いと思われる為、前中心に配置した(図3内-⑥)。アームホールから脇線へ入れられたラインはアームホールからつながるパイピングのようにも見え、制作上不可能ではないが、構造が不明瞭である。このアイテム画に対応するデザイン画を確認する

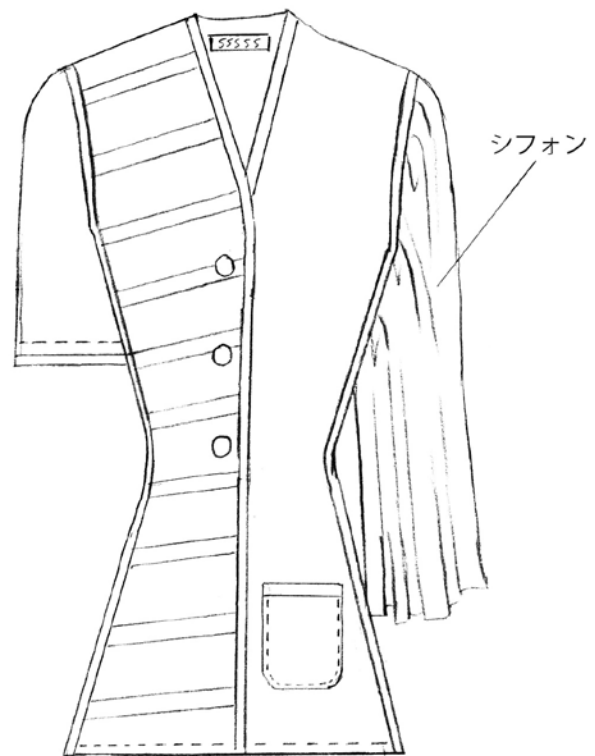


図2 学生作品事例1: アシンメトリーブラウス

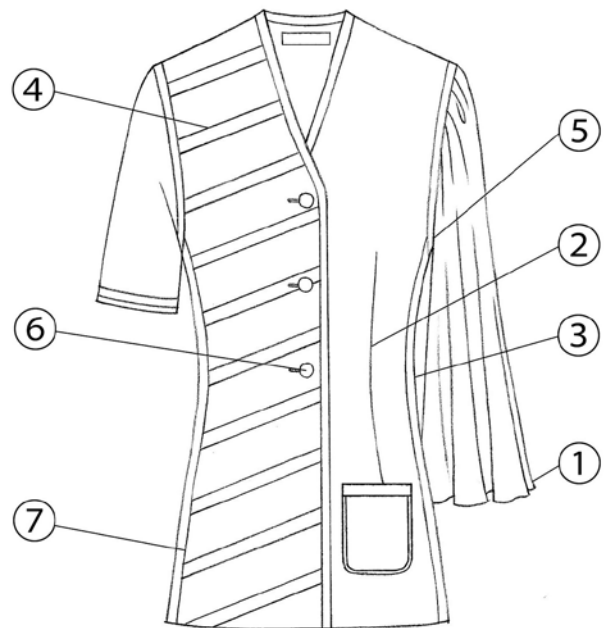


図3 改善事例1: アシンメトリーブラウス

と、脇線が細いパネル切り替えになっていた為、アイテム画の脇線のラインに少し幅を追加し、切り替え線とわかる様に表現した。(図3内-⑦)

図4に学生作品事例2として、オーバースカート付きパンツの事例を示す。テーパードパンツの上に、ウエストにリボンのデザインポイントのついた透ける素材使用のオーバースカートが重ねられている。オーバースカートのウエストにギャザーが含まれているデザインである。

オーバースカートのギャザー分量に対して、ヘムラインのフレア分量が少なすぎ、シルエットの広がりが小さすぎる不備が認められた。

図5、6に事例2オーバースカート付きパンツを修正した改善事例を2例示す。修正したポイントを以下に述べる。

図5の改善事例は、ギャザー分量に合わせてシルエットとヘムラインを修正した例である。オーバースカートのヘムラインは、ウエストから入る多くのギャザー分量から影響を受け、よりボリューム感が増し、立体的に見えなければならない(図5内-①)。また、ウエストギャザーの分量により、ギャザーを縫い止めている縫い目線から下はボリュームが出て、より広がったシルエットになるべきである(図5内-②)。

図6の改善事例は、ヘムラインに合わせてギャザー分量を修正した例である。学生作品のオーバースカートのシルエットの広がり具合、ヘムラインの浅い波打ち具合に合わせて、裾に影響を与えるギャザーの分量がもう少し少ないことがうかがえる。よって、ウエストギャザーの線を整理し、ギャザーの本数、長さを減らす必要がある(図6内-③)。

図7に学生作品事例3として、ベビードールワンピースの事例を示す。バスト下で切り替えられ、スカートと袖に分量感のあるフレアが入れたワンピースである。袖、裾、切り替えに施された装飾に、フレア、フリルが含まれているデザインである。

フレアの山の形について、見え方の表現に不備が認められた。また、袖、ペプラム、スカートのフレアがアウトラインのみで表現され、奥行きが表現されていないことが問題である。また、フリルの表現として、ウエスト切り替えに付けられたフリルの、あるべきヒダ線が描かれていないことが不備として挙げられた。

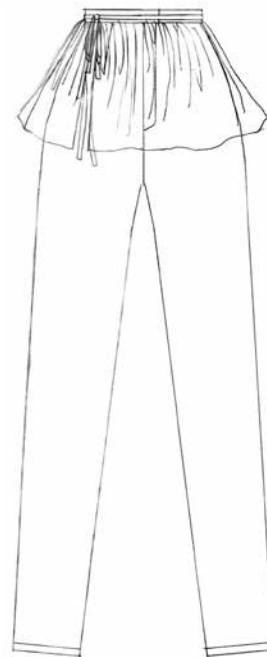


図4 学生作品事例2: オーバースカート付きパンツ

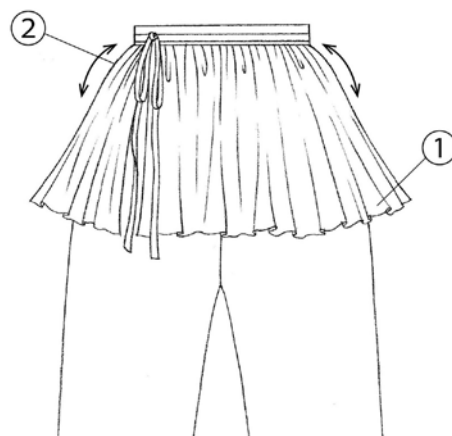


図5 改善事例2: オーバースカート付きパンツ

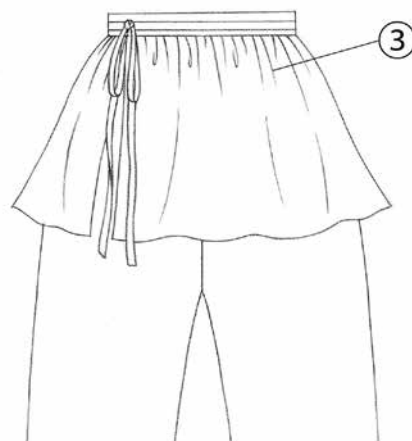


図6 改善事例3: オーバースカート付きパンツ

図8、9に事例3ベビードールワンピースを修正した改善事例2例を示す。修正したポイントを以下に述べる。

図8の改善事例は、学生作品のアイテム画に描かれたデザインを再現できるよう、特別な仕立て方を行うと想定して、修正を行った例である。また、図9の改善事例は、ある程度スカート丈の長さがあり、裾に特別な仕立て方を行っていない場合を想定し、改善事例5として示した。図8では、フレアによるヘムラインの凹凸を立体的に表現する為、奥行き部分をプラスした(図8内-①)。学生作品ではフレアの山の形が上下方向へ描かれているが(図7内-①)、このスカート丈の場合、このように大きく上下に波打っている様に見えないことが多い。このアイテム画の表現を実現するには、裾を伸ばし気味にした巻きロック仕立てや、細かいテグスを挿入した裾の仕立て方も考えられる。この場合、フレアの山が学生作品のフレアのように上下に波打つ。したがって、フレアの形は学生作品と同様の形とし、奥行き表現の追加のみの修正とした。

また、身頃の切り替えに施されたフリルには、ヒダとなる凹凸が表現されていない為、手前となるヒダ線を加え(図8内-②)、奥行き部分をプラスした。フリルの山の形についても、学生作品ではフレア同様上下方向へ波打つ形に描かれている。フリルは長さが短い為、奥行きが見えやすいが、このように大きく上下に波打ってい

る様に見えないことが多い。学生作品のフリルの形を実現する為、フレア同様の特別な仕立て方を行うと、フリルの山が学生作品のフリルのように上下に波打つ。したがって、フリルの形も学生作品と同様の形とし、奥行き表現の追加のみとした。

図9の改善事例は、フレアの山の形の改善例である。

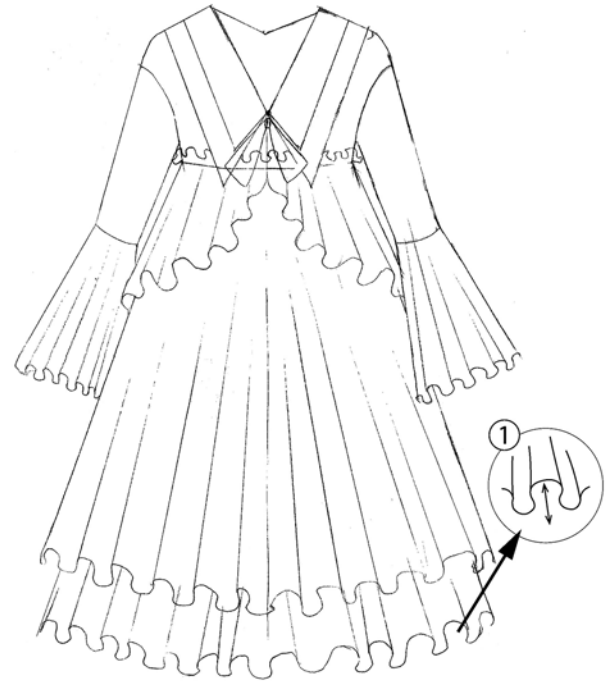


図7 学生作品事例3：ベビードールワンピース

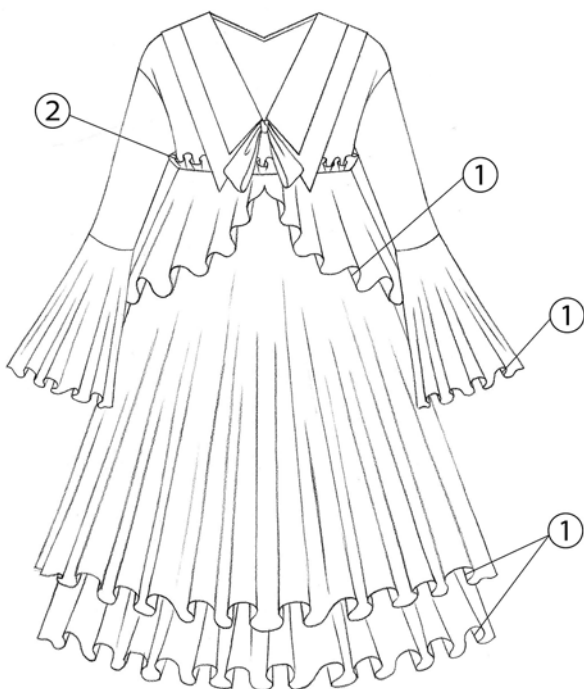


図8 改善事例4：ベビードールワンピース

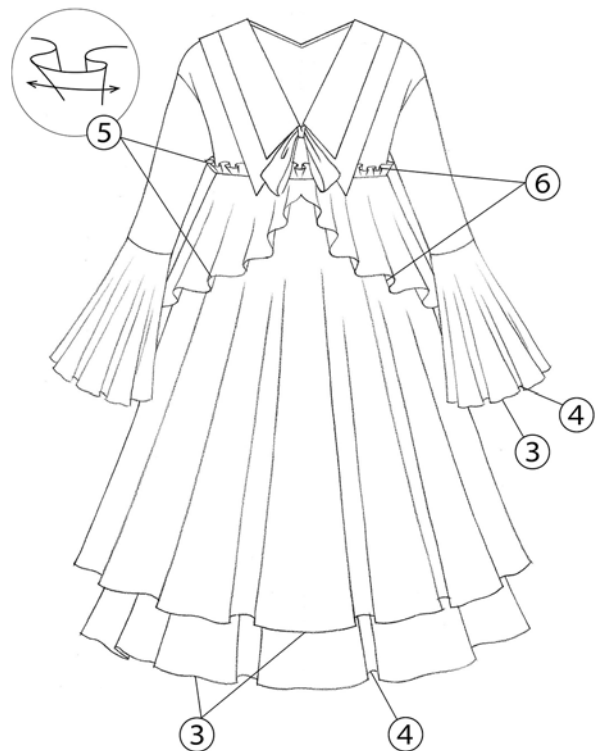


図9 改善事例5：ベビードールワンピース

特別な仕立てを行わない場合、フレアの山はあまり大きく上下に波打たず、重力の影響で自然に下方方向に落ちる為、フレアの山は横方向に広がる表現となる。フレアの丈が長い場合、フレアの内側の奥行きは見え、手前のヒダ状のフレアの山が見え（図9内-③）、山と山の間に奥行きが見える構造となる（図9内-④）。フリル、ペプラムのフレアも、特別な仕立てを行わない場合、上下に波打たせすぎず、横方向にフリルの山を描くのが自然である（図9内-⑤）。また、ヒダの奥行きを加えて立体感を表現する必要がある（図9内-⑥）。



図10 学生作品事例4：レイヤードスカート

図10に学生作品事例4として、レイヤードスカートの事例を示す。裾にフリルが施され、透ける素材のオーバースカートが装飾と共にアンダースカートに縫われている。ウエスト、裾にギャザー、フリルが含まれているデザインである。

不備として、フリルの構造が明確に描かれていないこと、また、ウエストの構造が明確ではないことが挙げられた。

図11に事例4レイヤードスカートを修正した改善事例を示す。修正したポイントを以下に述べる。

制作学生へのヒアリングにより、裾のディテールはフリルであることが判明した。学生作品の表現ではテープ状の布を畳んだタック飾りにも見えてしまう為、フリルであることがわかるよう修正した。フリルには片側にギャザーを寄せ、その影響でもう一方に立体的な凹凸を出すことが多い為、フリルの付け線にギャザーをプラスした（図11内-①）。また、短い幅のフリルの場合、ギャザーの反動で大きく波打ち、奥ヒダが見えやすい為、奥行きの見える表現が適していると考え、奥行きの表現を加えた（図11内-②）。

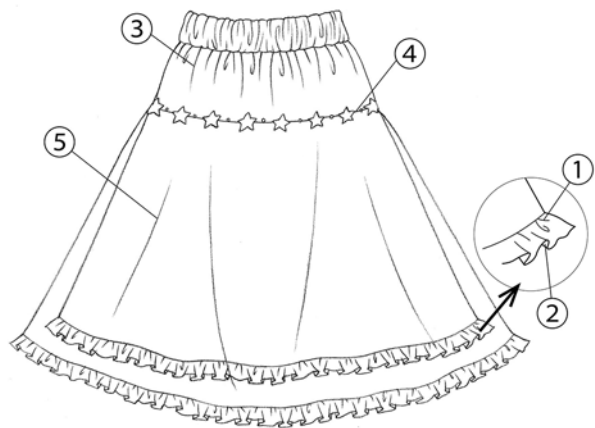


図11 改善事例6：レイヤードスカート

した（図11内-⑤）。

#### IV. 考察

学生作品事例1の結果より、ギャザー及びフレア分量とその分量が影響を及ぼすシルエットとの兼ね合いの把握不足が原因で不備が生じていることが認められた。

学生作品事例2の結果により、ギャザー及びフレア分量の描き方による分量感の違いの認識不足が原因で不備が生じていることが認められた。また、ギャザー分量とその影響で発生するフレア分量と、それらにより形作られるシルエットの関係の把握不足が原因で不備が生じていることが認められた。

学生作品事例3の結果により、フレア及びフリルの構造とその立体感の捉え方の理解不足が原因で不備が生じていることが認められた。また、フレア及びフリルの描

き方によるデザインの伝わり方の認識不足が原因で不備が生じていることが認められた。

学生作品事例4の結果により、フレア及びフリルの構造の理解不足が原因で不備が生じていることが認められた。また、ウエストに入れられたゴムによる布地への影響の理解不足、表現法の技術不足が原因で不備が生じていることが確認された。

これらのことにより、以下のことがわかった。

フレアはフレアの分量、丈によって、また、仕立て方によってシルエットが大きく変化し、それに伴い、デザインの印象も変わってしまうディテールである。フレアを描く際、フレア分量、その影響を受けるシルエット、デザインを念頭に置いた仕立て方等を考慮しなければならないが、学生にはこれらの兼ね合いの把握が難しいことがわかった。また、構造を把握することが難しく、構造を十分理解出来ていないことにより、分量感の大小や仕立て方別の裾の形状など、表現技術が不足しがちであることが判明した。

ギャザーは、入れるギャザー分量によってシルエットやデザインの印象に影響を及ぼしてしまうディテールである。学生にはギャザー分量の増減とそれに伴うシルエットとの兼ね合いの把握が難しいことがわかった。ギャザー分量とその影響が十分理解出来ていないことにより、描き方による分量感の大小やシルエットなど、表現技術が不足しがちであることが判明した。また、ギャザーは様々なデザインディテールに取り入れられている為、形状のバリエーションが多く、各デザインの構造を理解しなければならず、構造が十分に理解出来ていないことにより、表現が難しいことがわかった。

フリルは立体感のあるディテールの為、学生には形状の把握が難しいことがわかった。その為、奥行きのある構造が上手く表現出来ていない。また、構造を十分理解出来ていないことにより、描き方によるデザインの伝わり

り方の違いが認識出来ておらず、表現技術が不足しがちであることが判明した。

デザイン伝達の役割を果たすアイテム画を表現するには、ディテールの構造、立体感等を把握することが不可欠である。その経験の少ない学生に教示する際は、実物を提示し、その構造を意識して観察する機会の必要性を感じた。また、デザインには同じディテールでも、パターン、仕立て方、使用素材等によって変化が出る為、違いを把握、認識させる教示法が必要だと考える。この観点で、表現の不備の傾向を分類することにより、より適切な教授方法を提案できる可能性が示された。

#### IV. おわりに

本研究は、学生のアイテム画表現の不備の原因を探ることを目的とし、4件の作品について詳細に調査した。その結果、アイテム画表現の不備は、表現の技術不足だけではなく、各ディテールの構造が把握出来ていないことが原因であることを確認した。今後はより多くの作品について同様の検討を行い、量的調査を行うことを課題とする。

#### 謝辞

本研究は「文化・衣環境学研究所 学内共同研究プロジェクト」の助成金を受け、実施した。ここに記して感謝の意を表します。

#### 参考文献

- 1) 大沼淳、荻村昭典、深井晃子監修 「ファッション辞典」、文化出版局、2019年 第9版第3刷
- 2) 田中千代、「新・田中千代服飾事典」、同文書院、2008年第1版改定第9刷
- 3) 小川龍夫、「新版ファッション/アパレル辞典」、織研新聞社、2013年 初版第1版

